

燃える闘拳 挑む夢街道

ボクシングアマ転向の高山

ROAD
TO
TOKYO

日本で初めてボクシングの世界主要4団体で王座に就き、今月プロを引退してアマチュアとして2020年東京五輪出場を目指すと表明した高山勝成(名古屋産大)が26日、愛知県尾張旭市内で練習を公開し、「37歳で迎える東京五輪はラストチャンス。出場のハードルは高いが、自分のできる準備をしたい」と話した。

練習ではサンドバッグへの打ち込みやロープを使ったトレーニングで軽快なフットワークを見せた。3日から大学のボクシング部員としてトレーニングを積んでおり、「ラウンド数が短いアマはプロよりスピードや(パンチを)当てる技術が高い。早く適応させていきたい」と話した。過去の試合で負傷した左まぶたを近日に手術する予定で、術後はしばらく実戦的な練習はできず、基礎的なメニューで体をつくるという。

高山は今月、世界ボクシング機構(WBO)ミニマム級王座を返上してアマ宣言。ただ、アマを統括する日本ボクシング連盟はプロ経験者がアマの試合に出場すること認めていない。試合出場へ向けた具体的な交渉予定なども決まっていないが、「リオデジャネイロ五輪ではプロの元世界王者が出場した。一人のアスリートとして世界最高の舞台で戦いたい」と話し、今後も連盟への働き掛けを継続する。



名古屋産大ボクシング部練習場でサンドバッグを打ち込む高山勝成。愛知県尾張旭市で